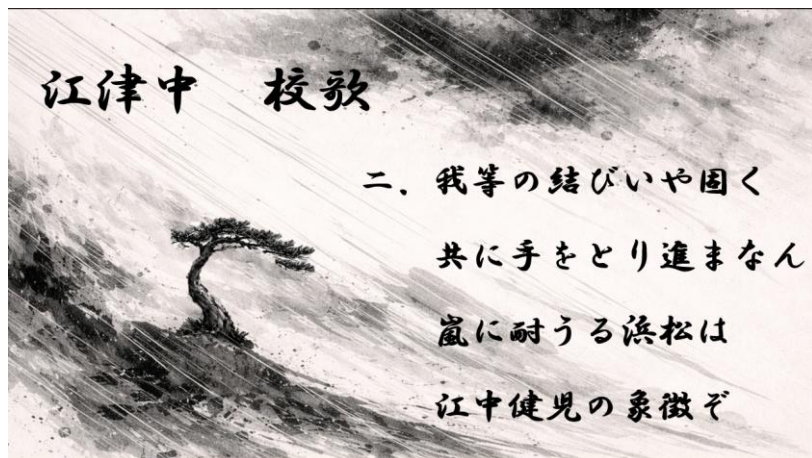


江中

共創

校長 大地本央仁



極端に暑くなったり、雨天が続いたりと不安定な天気が続いています。新年度から2ヵ月が過ぎ、1学期も中間地点です。

さて、本年度の生徒会スローガンは、「共創～Try and Unity～」です。

込めた思いの中には、「江津中学校を全校生徒で共に創っていこうという願いを込めました。

サブタイトルの「Try and Unity」には挑戦し、団結力のある江中生になってほしいという願いを込めました。

デザインは校歌の2番の歌詞「嵐に耐うる浜松の」をイメージしています。」という言葉がつづられています。

スローガンに込めた思い

江津中学校を全校生徒で共に創っていこうという願いを込めました。

サブタイトルの「Try and Unity」には挑戦し、団結力のある江中生になってほしいという願いを込めました。

デザインは校歌の2番の歌詞「嵐に耐うる浜松の」をイメージしています。

「共に創る」という考え方は、ウェル・ビーイングにもつながる言葉であるなと思いました。江中健児の象徴である浜松のイメージも素敵ですが、校歌の「我等の結びいや固く 共に手を取り進まん」の部分も「共創」のイメージにぴったりですね。

この中でも特に惹かれた「嵐に耐うる浜松」という言葉ですが、嵐に耐えていれば、当然傷つくこともあると思います。「傷つくこと」についてPHPという冊子のコラムを紹介します。

【傷つくこと】

人は生きていれば、必ず傷つくものである。体の傷も心の傷も、できれば避けたいし、負いたくない。

しかし、ふり返ってみると、人生とはその傷の数だけ経験が積み重なって、形づくられてきたのではないだろうか。

人との競争、裏切られた信頼、己の力不足。様々な場面で受けた傷を抱えながら自分を省みてきた日々。

自分の未熟さ、愚かさのために得た傷が、いつしか成長の証へと変わり、分別を覚え、人情をわかまえる大人になっていく。かつて配慮ができなかった他人の傷の痛みも、我がこととして受け止められるようになる。

そうした人としての成長は、皆みずからが傷ついたがゆえに得られたものだ。

だから、今さら傷ついた自分を恥じたり、弱いと思ったりする必要はない。向こう傷を抱えたまま歩んできた自分がある。その事実を、静かに肯定すればよい。

これからも、生きている限り何かと傷つくことだろう。それでも、恐れることはない。その傷の一つひとつが、必ず自分の誇りへとつながっていくと信じて。

(PHP 2026年5月号より引用)

令和8年度 浜田ブロック大会開催

5月27日(水)の陸上競技を皮切りに浜田ブロック大会が開催されます。6月3日(水)～5日(金)には、その他の種目が各会場で行われます。バスケットボールは、今年度からクラブとしての参加になります。

何を目的にして、どんな目標をもって普段の練習に取り組んできたかが試される大きな意味のある大会になると思います。ぜひ、目的達成のために力を尽くしてほしいと思います。また、どんな状況でも出来ていることが最大限発揮できるように、できてないことをできるようにするだけでなく、何故うまくいっているのかをチームメイトや各自で確認することをお勧めします。それをよいルーティーンとして大会で発揮できるといいですね。それでは、充実した大会になることを願っています。